

2016年度活動報告

地球環境とともに

地球の豊かな自然の恵みを受けて事業を営むマルハニチログループは、「環境」を経営の重要課題の1つと位置づけ、取り組みを推進しています。



環境方針

地球では今、世界人口の急激な増加を背景に、地球温暖化、資源の枯渇、生態系の破壊などが深刻化しており、将来にわたって人と多様な動植物がともに生き、自然の生産力を維持し続けていくことが困難な状況になってきています。

このような時代背景のなか、マルハニチログループでは「食」という人間の営みの根幹を今後も支え続けるために、環境に対してどのような配慮が必要なのかを検討し、マルハニチログループビジョンを具体的な方針に落とし込んだ「マルハニチログループ環境方針」を制定し、グループ全体で環境経営に取り組んでいます。

なお、環境方針は、Webサイトやイントラネット、従業員教育を通じて、グループ全従業員への周知徹底を図っています。

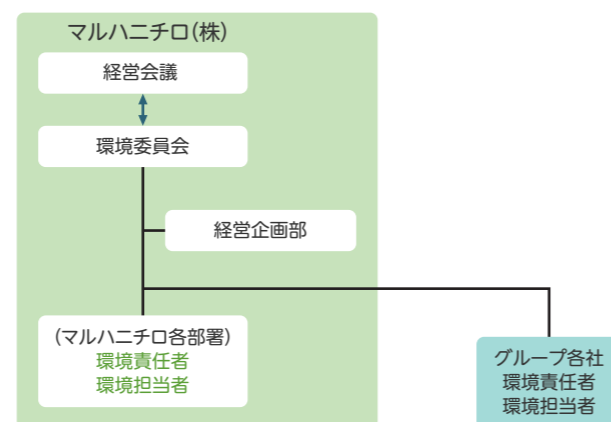
環境方針

1. 環境に配慮した製品・サービスを提供します。
2. 限られた資源を有効に使用するとともに、環境負荷の極小化に努めます。
3. 環境に関わる企業情報を適切に開示し、社会とのコミュニケーションを図ります。
4. 環境関連の法規制を遵守します。
5. 従業員一人ひとりが自然の恵みに感謝する意識を高め、環境保全活動にも積極的に取り組みます。
6. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的改善を図ります。

環境マネジメント体制

環境経営をさらに強化する目的で、2017年度より経営会議の諮問機関として、社長を委員長とする環境委員会を新たに設置しました。環境委員会で定められた計画・施策は、マルハニチロとグループ各社の環境責任者を介して周知され、各社において具体的な施策を立案・実施しています。

環境推進体制



温室効果ガス排出抑制のためのエネルギー使用量の削減

マルハニチログループは、2014年度から2017年度までの4年間で、2013年度を基準年としてエネルギー使用量を4%以上削減することをグループ共通の目標に掲げました。

2016年度は、設備メンテナンス強化によるエネルギーロスの削減、設備導入など各社ごとの削減目標を設定し取り組みましたが、グループ全体のエネルギー使用量は、107,290キロリットル、2013年度比で2,613キロリットル(2.4%)の削減となりました。

2017年の目標達成に向けて、進捗の遅れを取り戻すべく、さらなる省エネ活動を推進していきます。

オゾン層破壊物質の削減と地球温暖化防止

冷凍・冷蔵設備に冷媒として使用されているフロン(R-22)は、オゾン層破壊の原因物質であることから、2020年までに全廃することが法律で決まっています。また、その代替物質である代替フロン(HFC)もまた、大気に放出されることで地球温暖化への影響が大きいことが懸念されています。

そのため、マルハニチログループでは、「既存のフロン使用設備の更新および新規冷凍・冷蔵設備の購入にあたっては、代替フロンではなく、より地球環境に優しい冷媒である自然冷媒[※]を使用した設備を採用する」という考えのもと、設備の更新・新規購入を進めています。これにより、オゾン層保護だけでなく地球温暖化防止にも配慮した設備導入となるように活動しています。

[※]自然冷媒:自然界に存在する物質かつ冷媒となる性質を持つ物質のことで、フロンや代替フロン以外の物質のこと。具体的には、CO₂、イソブタンなど炭化水素、アンモニアなどの物質をいいます。

活動事例

「カーボンニュートラル」の取り組みを推進

オーストラルフィッシュリーズは、「カーボンニュートラル[※]」認証を取得し、その取り組みである西オーストラリア州にある小麦地帯での植樹プログラムを推進しています。2016年度のCO₂総排出量は当初の試算より5,197トン増の32,619トンとなり、これを相殺する植樹の本数を、190,000本から220,000本に増やすことを決定しました。また、2017年1~12月の自社操業にともなうCO₂総排出量の相殺に関しては一部手順を変更し、総排出量が確定する2018年4月末に行うこととしています。

オーストラルフィッシュリーズでは、この「カーボンニュートラル」の取り組みが、水産資源の安定供給につながるさらなるステップと位置づけ、ブランドロゴ「CNfish」を商品に展開し、環境配慮商品の拡販を進めていきます。



[※]カーボンニュートラル:事業において排出されるCO₂総排出量と同量のCO₂量を吸収する対策を打つことでCO₂排出量をゼロにすることです。

廃棄物発生量・最終処分量の削減

マルハニチログループは、貴重な食資源を取り扱う企業グループとして、資源の有効利用を重要なテーマと位置づ

けています。2014年度から、環境中期4ヵ年計画に「廃棄物の削減」を加え、廃棄物総排出量を2017年度までに2013年度比4%以上削減するという数値目標を掲げました。

2016年度は、工場をもつ企業が中心となり、工程改善による製品不良の抑制やメンテナンス強化による設備起因の廃棄物の発生抑制などに取り組みました。この結果、グループ全体の廃棄物総排出量は30,424トンとなり、2013年度比で2,888トン(8.6%)の削減となりました。

生物多様性の保全

マルハニチロは、2009年に発表された「日本経団連生物多様性宣言」の趣旨に賛同し、2009年から同宣言の推進パートナーズに参加しています。このほか、日本経団連自然保護基金[※]の活動趣旨に賛同し、同基金に毎年寄付金を拠出しています。

また、生物多様性に関する取り組みの情報交換・意見交換の場である一般社団法人「企業と生物多様性イニシアティブ」に参加し、最新情報やノウハウの収集を参加企業間のネットワークを通じて行っています。

2016年3月には、官民が連携して東京湾の環境改善に取り組む国土交通省の「東京湾UMIプロジェクト」協力企業に選定されました。今後もこの活動への参加を通じて、生物多様性保全に貢献していきます。

[※]日本経団連自然保護基金:アジア太平洋地域を主とする開発途上地域の環境保全活動を展開している非営利の民間組織プロジェクトへの助成や、国内の環境保全活動への助成などを目的に設定された基金です。

活動事例

世界の水産関連企業とともに「キーストーン・ダイアログ」に参加

水産資源管理にグローバルに取り組むための新たな試み「キーストーン・ダイアログ」。マルハニチロは、世界の大手水産企業[※]並びに海洋・漁業・持続可能性を研究する科学者とともにSeafood Business for Ocean Stewardship(海洋管理のための水産事業)を立ち上げる声明に署名しました。

マルハニチロは、本声明への参画を通じて、水産業界を牽引するグローバル企業の一員として、地球規模での海洋資源の保全と持続的利用をめざし、海洋資源の長期的かつ持続的な価値の創造に尽力してまいります。

[※]「キーストーン・ダイアログ」参加企業:マルハニチロ、日本水産、極洋、タイ・ユニオン・グループPCL、ドンウォン・インダストリーズ、マリオン・ハーヴェストASA、セルマック、スクレッティング、カーギル・アクア・ニュートリション